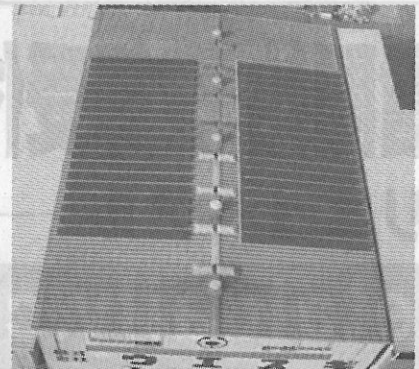


成21年(2009年)2月25日(水曜日)

# 太陽光発電システム設置 環境対応を強化

## ウエスギ

総合リサイクル企業のウエスギ(本社・三重県四日市市天力須賀新町1-23、社長・上杉圭司氏)は、環境への取り組みを推進するとともに、社内で消費



本社工場の発電システム

県の産業廃棄物の等フィールドテスト事業の共同研究先に選定され、太陽光発電システムを設置。

今年設置した太陽光発電システムは6500平方メートルで、1時間当たり40キロワット発電が可能なもの。日光の照射条件にもよるが、同社では消費電力の約50%を太陽光発電からの供給を見込んでいる。太陽光エネルギーの発電状況がリアルタイムに分かるモニターを事務所内に設置し、全社員の環境意識の向上にも努めている。

する電力エネルギーコストを削減するため、新エネルギー産業技術総合開発機構(NEDO)の支援を受けて、先月、本社工場に太陽光発電システムを設置した。

同社は、非鉄金属リサイクルのほか、被服電線ナゲット処理、金属スクラップの回収、廃プラスチックなどの収集・運搬、再資源化も手掛ける。また、大手電機メーカーから排出される産業廃液を中和処理するなど事業は幅広い。06年には三重

最近、地球温暖化防止策への関心が高まっている中で、リサイクル業に従事する同社は、原料の循環だけでなく地球資源を有効活用するリーディングカンパニーとなるべく、NEDOが主催する08